



第4回大図研京都連続セミナー ライブラリアン・セッション

「ライブラリアン・セッション」とは、それぞれの図書館員が、知識・スキル・経験を発表し、フロアとの意見交換や情報交換を通じて、更に深められた知識・スキル・経験を共有する図書館員による図書館員のための「場」です。たくさんのご参加、お待ちしております。

- 13:30-13:40 開会のごあいさつ
 13:40-14:10 福井京子（京都大学教育学研究科図書室）
 いま求められる図書館員：大学の場合
 14:10-14:40 土出郁子（愛媛大学図書館）
 「闘病記」資料群の性格と愛媛大学における事例
 14:40-15:00 休憩
 15:00-15:30 坂本拓（京都大学文学研究科図書館）
 私たちが図書館員でなくなる時：危機管理の視点から
 15:30-16:00 呑海沙織（京都大学医学図書館）
 図書館員養成におけるメンター制度
 16:00-16:30 大綱浩一（京都大学附属図書館）
 大図研京都支部 Web サイトの紹介
 16:30-16:40 閉会のごあいさつ

日 時：2007年10月7日（日）13:30-16:40（受付 13:15-）

会 場：キャンパスプラザ京都 第二会議室

<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/access.html>

主 催：大学図書館問題研究会 京都支部

参加費：無料

参加申込：下記のいずれかの方法でお申込み下さい。

- ① 下記の大図研京都連続セミナー申込フォームで申し込む。
- ② 電子メールで申し込む。 E-mail: dtkk@rg7.so-net.ne.jp
- ③ FAX で申し込む。 FAX: 075-753-4330（京都大学医学図書館 呑海沙織宛）

[目 次]

第4回大図研京都連続セミナー：「ライブラリアン・セッション」のご案内	...	1
第2回大図研京都連続セミナー：「Web 2.0時代の大学図書館」参加報告(1)	...	2
第2回大図研京都連続セミナー：「Web 2.0時代の大学図書館」参加報告(2)	...	3
続京大図書館史こぼれ話 第十二回	...	4
第5回大図研京都連続セミナー：「パブリッシングの変化」のご案内	...	6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm>

第2回大図研京都連続セミナー「知の変容と大学図書館」
「Web 2.0時代の大学図書館」参加報告(1)

森 美由紀

大図研京都連続セミナー「知の変容と大学図書館」の第2回は、2007年6月3日(日)13:30-16:30に、会場をキャンパスプラザ京都 第三会議室で開催された。

講師は、北克一氏(大阪市立大学)、テーマは「Web2.0時代の大学図書館」であった。なお、当日のレジメは以下にある。レジメ：<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/event/20070715.pdf>
講演の概要を簡単に報告する。

講演者は冒頭に次の問いを参加者に投げかけた。「機関レポジトリなんてめんどろなことをやらずに、全部Googleにデータを渡してはどうなんだ?」と、時計台にある建物の本部の「偉いさん」から言われたら、あなたはきちんと図書館の事業としての必要性を説明できますか?」

講演前半ではWeb2.0という「潮流」について、T.オライリーの「Web2.0の7つの潮流」を、幾分ジャーゴ的な意味合いもあるとしつつも、この「潮流」について、次のように認識を示した。

1990年代中頃まで、一部の通信工学系の研究者を除いて、日本人のほとんどはインターネットという言葉を知ることがなかった。世界で初めてのWWWが出現したのは1989年、Amazon.comの誕生が1994年、Google生誕が1998年である。そして現在、Cluetrainが予見し、FOSS(Free Open Source Software)が準備した世界が一挙に開花しようとしている。

それは技術的にはオープンソースであるLAMPまたはLAPPを基礎とし、Ajax、Mashup、RUI(Rich User Interface)に代表される技術であり、社会学的視点、または、ビジネスモデルとしてはFolksonomyやThe Long Tail、CGM(Consumer Generated Media)などの概念が提唱されており、より広くはオープンアクセス環境の進展である。こうした古代カンブリア期の地球上の生物種の大爆発にも比されるインターネット世界のティッピングポイント(Tipping Point)として、「インフラとしての集合知モデル」の提唱がある。

さらに参考情報として、「Googleのアルゴリズムとビジネスモデル」、「P2P方式とファイル交換ソフトと情報漏洩」、「Web2.0の技術」、「Web2.0のビジネスモデル」など多様な視点から取り上げた。講演の前半の結びは、こうした情報環境の巨視的な変容が、人々の情報獲得行動に変化をもたらしているという指摘であった。「ベーコンの神託」、「アテンション経済」、「Googlezon」、「プロファイリング・ビジネス」、「ネットワーク・エコノミーの課金モデル」など事例はいずれも興味深い内容であり、部分的に聞いていた言葉・概念が全体像の中に整理されていく進行であった。

講演後半では、「電子図書館/電子ジャーナル/機関レポジトリ/知識情報基盤—大学図書館におけるデジタル化とネットワーク化の動向—または、足元の課題/危機/チャンス」という挑発的な演題で進められた。1970年代からの図書館機械化/電子化の流れを総括し、併せて学術情報流通政策の過去と現在を重ね合わせる中で、「コンテンツの形成と提供の変化」をキーワードに、大学図書館における今後の中心的なキーコンセプトとして「オープンソース/オープンアクセス潮流へのコミットメント」と見通しを語り、講演の締めくくりとした。講演の最後の結びは「なぜGoogleに全部を預けないのか?、をきちんと説明ができるようになりましたか?」という暗喩的な言葉で締めくくられた。話題は多様かつ総括的・刺激的で、半日の講演・質疑時間帯では情報量過多の気分陥った点は、日頃の不勉強とはいえ、残念な気持ちであった。今後、当日のレジメの参考文献などを手がかりに、研究を進めたい。

もり みゆき

第2回大図研京都連続セミナー「知の変容と大学図書館」 「Web2.0時代の大学図書館」参加報告(2)

小林 直子

1. はじめに

セミナーで出された課題は、'「機関リポジトリなんてめんどろなことをやらずに、全部Googleにデータを渡してはどうなんだ？」と、時計台にある建物の本部の「お偉いさん」から言われたら、あなたはきちんと図書館の事業としての必要性を説明できますか？'というものでした。Web2.0時代の大学図書館と機関リポジトリはどのような関係にあるのでしょうか？

2. Web2.0と大学図書館

Web2.0を表す言葉といえば、オープンソース、相互利用性、ユーザー参加、RSS、ブログ、SNSなどで、ユーザー行動の累積がビジネスモデルになると広く知れ渡ったことがポイントです。大学図書館・研究機関でWeb2.0の技術などを利用した新しいサービスも始まっています。例えばプロフィールを利用した連想検索OPAC(沖縄国際大学)1)、RSS(RDF Site Summary)を活用した新たな図書館サービスの展開:OPAC2.0へ向けて(農林水産研究情報センター)2)、RSSを利用したHP更新情報の配信(京都大学図書館機構)などです。また、『今後の図書館システムの方向性について』3)ではweb2.0の手法を導入したシステム開発等が提案されています。web2.0などの情報環境の変化につれて、大学図書館を取り巻く状況も大きく変わろうとしています。

3. 学術情報流通モデルの変容

電子ジャーナルとシリアルズ・クライシスは学術情報流通のモデルを変容させました。機関リポジトリ構築は、大学・研究機関からの学術情報の発信であり、商業出版者に権利を握られているコンテンツを大学・研究機関に取り戻し無料でアクセスを保証する大きな動きです。ウェブ上に論文の印刷版、著者最終版など段階の違うものが存在する点などの問題点も存在しますが、大学・研究機関の内側からのコレクション構築としてデータを蓄積していくことは、情報環境が変化しても変わらない図書館の基本的な機能の一つです。しかし、著作権を意識しデータの登録を教員に働きかけていくことは、今までの図書館員の仕事と異なるため、最初は抵抗感がありました。学術情報流通モデルの変容は図書館員の意識も変えました。学位論文やシラバス、配布物なども永遠に増え続ける貴重なコンテンツです。

4. Web2.0時代の大学図書館(おわりに)

目録業務の書誌データの共有化と業務の合理化から始まった大学図書館の機械化ですが、今ではいかにウェブサービスを充実するかに重点が移っています。Web2.0の技術や手法があれば利用者の視点にたったサービスの改善が期待できると思います。機関リポジトリ構築により、学術ネットワークの中で大学・研究機関がハブの役割を果たす可能性も感じます。

それによってグーグルなどとの関係がどう変わっていくのかわかりませんが、コンテンツを自前で蓄積していくことは、生き残りに必要なことだと思います。

<注>

1) 當山仁健. 利用者のプロフィールを考慮した連想検索 OPAC の構築. 情報の科学と技術. Vol. 56, No. 9, p. 520-525

2) 林賢紀, 宮坂和孝. RSS(RDF Site Summary)を活用した新たな図書館サービスの展開: OPAC2.0 へ向けて. 情報管理. Vol. 49, No. 1, p. 11-23

3) 国立大学図書館協会学術情報委員会図書館システム検討ワーキンググループ. 今後の図書館システムの方向性について. 平成 19 年 3 月.

http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/si/systemwg_report.pdf [参照:平成 19 年 8 月 11 日]

こばやし なおこ (京都大学経済学部図書室)

続京大図書館史こぼれ話 第十二回

京大草創期、図書館を巡って起こった対立事件 その9

廣庭 基介

ここで法科の五教授から「無能であるから罷免せよ」と、これ以上苛酷な言葉は無い、というほどの批判を浴びせられたのは森春吉書記官であろうと考えられます。『京都大学歴代職員録 (平成 8 年 9 月)』(京都大学庶務部広報調査課編、京都大学発行、平成 8 年 11 月 15 日)の 55 ページに歴代書記官の任免記録が載っています。これによると、初代書記官は明治 30 年 6 月 28 日から同 31 年 2 月 15 日までと、明治 36 年 6 月 4 日から同 39 年 4 月 20 日まで中川小十郎となっていますが、それと重なって明治 31 年 4 月 16 日から同 44 年 3 月 15 日まで森春吉が書記官の任に就いていることが分かります。

中川小十郎は、1866 (慶応 2) 年京都府南桑田群馬路村に生まれ、明治維新に際して、祖父・父が、山陰道鎮撫使西園寺公望の檄に応じて、山国隊と共に弓箭隊を組織して参加した縁で、西園寺に可愛がられ、後に東大法科大学を 1893 (明治 26) 年卒業後、第二次伊藤内閣の文相であった西園寺の秘書官となり、明治 30 年からは京大創設と同時にその書記官となって、木下初代総長の事業を助けたのでした。次いで明治 31 年 2 月に京大を一時退官して、1900 (明治 33) 年に立命館大学の前身となる京都法政学校を創立したり、加島銀行理事、朝日生命副社長に任じ、その後、明治 36 年 6 月から再度京大書記官、第一次、第二次西園寺内閣の首相秘書官を務めました。1912 (大正元) 年公務を退官、台湾銀行頭取、勅選貴族院議員、1913 (大正 2) 年には、京都法政学校を立命館大学に昇格させ、その総長に就任しました。その在任中、同大学内に禁衛隊を組織して国家主義を標榜する傍ら、政府の自由主義・社会主義の思想弾圧による瀧川事件などで京大を逐われた多くの学者を迎え入れて、政府とは異なる学者尊重の態度をとりました。

法科五教授がこの中川小十郎書記官を、無能だから罷免せよ、と要求したとは到底考えられません。何故なら、五教授の内、織田萬、井上密、仁保亀松は東大法科の 1893 (明治 26) 年卒業の同級生、高根義人は、1892 年卒業の 1 年先輩、岡松参太郎は少し遅れて 1896 (明治 29) 年卒業と 3 年後輩に当たり、特に織田は、京大在職中から、中川の創設した京都法政学校、後の立命館大学に出講したり、後には同大学総長にも就任して、中川を助け、井上、岡松も論文を立命館の雑誌に寄稿するなど、何等かの形で中川に協力しているからです。

前記の京大書記官履歴から云えば、初代書記官は確かに中川ですが、彼は西園寺文相の秘書官から横滑りで特に命じられて京大書記官となったので、京大プロパーの初代書記官は森春吉であったと云うことも出来るのです。

では、法科五教授が罷免を要求した森春吉という書記官はどのような人物だったのでしょうか。森の孫の森哲雄が作成した春吉の年譜を筆者は入手していますので、ここに転載します。(廣庭注：何故、筆者がこの年譜を入手したのかは、後に述べます)

森は嘉永3(1850)年高知に生まれました。1861(文久元)年より1866(慶応2)年まで高知で漢学、蘭学、英学、医学を学び、慶応2年12月、17歳の時、藩命により江戸に出て、福沢塾(後の慶応義塾)に入塾、土佐の三人衆(森と馬場辰猪、久米弘行)と呼ばれ、在塾生40人中の最年少者でした。1868(明治元)年12月、福沢諭吉より1ヶ月3円の給与を与えられ、食客として苦学すること6ヶ月後、土佐藩庁より更に洋学終業を命じられ、3人扶持、月に五両の学資を給与されます。1871(明治3)年、福沢塾を卒業し、藩命により高知に帰国し、藩の洋学教官を拝命、翌年、依頼免官の上、私費を以て更に英学修業の旨を出願し、許可を得て大阪に出て英学修業しました。

工部省工部大丞をしている先輩に世話して貰って工部大学の前身である工部省測量司の技術一等見習(官費学生)となり、月給15円で採用されましたが、見習なので短期間で辞職し、私立有馬英学校の教頭となり、約1年間教鞭を執りました。1873(明治6)年4月、最初の任官となる文部省12等出仕(月俸25円)として、東京大学の前身である開成学校監事を命じられました。1878(明治11)年、開成学校での同僚であった高橋是清(後の蔵相、首相、二・二六事件で殺害される)らと相諮り共立学校(後の開成中学校)を創立し、公務の余暇に英語を教授しています。その間、東京英語学校教諭、大学予備門(第一高等学校の前身)司事等を歴任して、文部省御用掛となりました。(廣庭注：「御用掛」は旧宮内省で、各事項により天皇に参考意見を述べるために選ばれる、職制に属さない個人の短期雇用高級職員の職名であったが、後には文部省その他の省庁でも特定の問題に関する専門家を個人で雇用する際の高級臨時職員に御用掛の名称を与えた)

(つづく)

ひろにわ もとすけ(元京大図書館員)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2007年度(大図研会計年度2007.07 - 2008.06)に入っておりますので、2007年度の会費の納入をお願い致します。また、2006年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904

大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部(dtkek@rg7.so-net.ne.jp)、または支部委員(組織・財政担当)の大綱浩一
 までお
 問い合わせください。

第5回

大図研京都連続セミナー「知の変容と大学図書館」

「デジタルメディア時代における知とパブリッシング (仮)」

(長谷川一先生) のご案内

講師：長谷川一先生 (明治学院大学)

日時：2007年11月11日 (日) 13:30-16:30 (受付：13:15-)

会場：キャンパスプラザ京都 第一会議室

アクセス：<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/access.html>

主催：大学図書館問題研究会 京都支部

参加費：大図研会員は800円 / 非会員は1000円 (参加費は当日、会場でいただきます。)

申込方法：(1)お名前、(2)ご所属、(3)大図研の会員であるか否か、(4) E-mail、(5)懇親会

参加の有無をご記入の上、下記いずれかの方法でお申込み下さい。

・京都支部 Web サイトからのお申込みは

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm> から。

・E-mail でのお申込みは 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp)宛に。

・FAX でのお申込みは 支部委員 呑海沙織 (京都大学医学図書館、075-753-4330) 宛に。

ご不明な点などございましたら、京都支部 支部委員会 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp) までお問い合わせください。

『大学図書館問題研究会誌』第30号、発売中！

海外 ILL 入門 —東京学芸大学附属図書館での経験に基づいて— / 高橋隆一郎

EzProxy を使ってサイト契約データベースを自宅からアクセスする 国際基督教大学図書館

での EzProxy 導入事例報告 / 黒澤 公人, 宮本智佳子

大図研特別企画「検索の鉄人に聴く！検索エンジンを使い倒すコツ」(講演報告) /

関 裕司 (講演者), 小野亘 (記録)

大学図書館問題研究会愛知支部 第34回(2006)春の交流会講演録 図書館って丸投げして

大丈夫？ —指定管理職制度の“光”と“陰”を考える— / 中嶋 哲彦

◇◇◇会員：600円 一般：800円◇◇◇

詳しくは、下記をご参照下さい。

大学図書館問題研究会ホームページ <http://www.daitoken.com/>